

教科名（ 音楽 ）

1 生徒の現状分析

観 点	分 析 内 容
知識・技能	・姿勢、発声、発音、表情等の基本的な技能は、学年が上がるごとに定着している。 ・表現技能の向上のために必要な基本的な知識が定着していない。 ・1・2年生・・・声を出して歌おうとするが、歌詞の内容や強弱記号、息つき、鼻濁音などを意識するところまでには至っていない。 ・3年生・・・声量はかなりあり、歌詞の内容や、表現に気を配ろうとする生徒も多く見られる。 ・創作は、基本的な知識の理解に時間を要する。
思考・判断・表現	・身につけた知識が表現活動に結びついていない。 ・鑑賞する際はポイントを絞り、わかったこと、感じたことを、よく書いている。
主体的に学習に取り組む態度	・授業規律を守り、落ち着いた環境で歌唱、鑑賞、創作活動に取り組もうとしているが、学年によって落ち着かない場面もある。

2 指導方法の課題分析

- （1）授業規律の確立と、基本的な表現の定着に向けた環境整備と教材研究。
- （2）基本的な知識を表現、創作活動に活かせるような教材準備と工夫。
- （3）鑑賞において、曲、作曲者、時代、背景等への関心につながる教材研究。
- （4）和楽器実技では基本的な知識、奏法を理解し、実技に活かせるような事前学習の工夫。

3 授業改善に向けての方策

- （1）落ち着いた環境作りのために、学習環境を整える。
- （2）自己評価の記入により、学習内容と振り返りができるようにする。
- （3）合唱の導入では呼吸のエクササイズを行った後、発声練習を行う。ピアノで旋律を確認した後、リーダーを中心にパート練習を繰り返し行い、パート内での対話をとおして、楽譜を読み解く力を身につける。合わせ練習では各パートの力を結集させ、全体の響きを意識できるように表現活動の向上に努める。
- （4）鑑賞では、学習内容を理解させるために、視聴覚教材や補助教材を使用する。
- （5）創作では手順に従って、音楽づくりに親しめるようにする。
- （6）和楽器実技では、箏の親指の奏法を中心に事前学習で理解させ、実技に活かせるようにする。（グリッサンド、押し手、トレモロ）

4 その他

- （1）合唱コンクールの伴奏・指揮者の練習は、夏休みに行う。
- （2）和楽器実技では、箏を1人または2人で1面使用し、外部指導員による授業を展開する。